亡き父に重ね合わせて

桑原　みどり

月日の流れは本当に速いもの。水上先生のお口添えで大阪工業英語研究会に入会させて頂いたあの日、緊張のためふるえが止まらなかったこと、そのふるえる手で試訳を黒板に書いたこと等々、今でも鮮明に覚えています。まわりは男性が殆ど、それも翻訳を仕事としている人ばかり。＜こんな中に私が入れてもらって本当によいのだろうか、ついていけるのだろうか＞と不安一杯のスタートでした。しかしそんな不安も徐々に消えていきました。「工業英語研究会」という名前の持つ機械的で冷たいイメージからは考えられないほど暖かく包容力のある雰囲気の中で。

そして１０年、この間に私は、工業英語のみならず多くのことを教えて頂きました。電気や機械といった技術分野はもちろんのこと、最先端の科学情報から、実務英語、文学に至るまで。なにしろ水上先生は勿論のこと、まわりは私にとってそれこそ先生ばかりでしたから。そしてもう一つ、こういった知識とは別に、私がこの大阪工業英語研究会を通して学んだこと、それは「学び続ける姿勢」即ち「人生かく生きるべき」という一つの人生観でした。そして、それを教えてくださったのが徳永さんでした。学ぶということに対するその真摯な態度、常に謙虚で、他人の話にじっと耳を傾け、他人を受け入れる包容力、そして衰えることのない知識への情熱、私は感動し畏敬の念さえ覚えました。

グループ研究会でのこと、文法上の解釈で、私の意見とみんなの意見が異なり、結局受け入れてもらえず、納得できないままに忘れかけていたとき、ネイティブに確認の上で私の意見が正しいと文章にして配布してくださった徳永さん。又ある時は私の重大な間違いを優しく指摘して下さったこともありました。セミナーのたびに＜今日はいらしているだろうか＞と教室に徳永さんの姿を探したのは、同じ明治生まれの亡き父への思慕にも似た思いを抱いてのことでした。今はその一つ一つが懐かしい思い出となってしまいました。

この大阪工業英語研究会は、営利を目的とせず純粋に勉強のみを目的として、徳永さんの情熱により創立されたものであり、現在のような安定した状態になるまでには並々ならぬ苦労と努力があったと伺っております。この徳永さんの遺産ともいえる大阪工業英語研究会を今後とも維持発展させるのが我々会員の責務でありましょう。私も会員の一人として少しでも役に立たねばと心に期しております。

徳永さんの遺志を受け継ぎ、大阪工業英語研究会の更なる発展を願って。

合掌